

授業科目名	発達心理学	担当教員	平原憲道
必修	開講年次：1年後期	単位：2単位	授業形態：講義 30時間

【授業概要】

人間は身体的、心理的、社会的、霊的側面を持つ統合体であり、生涯にわたって発達してゆく。人間の知能、感情、人格の形成、対人関係、社会的役割などの発達に個人差はあるが、各発達過程における一般的様相や課題については共通する部分が多い。その過程を主な発達理論を比較しながら、最新の研究動向も紹介しながら考察する。

【授業目的・目標】

人間を生涯発達の視点から見て、各発達過程における特質や発達課題についての知識を取得し、ライフパンに渡る看護の対象についての理解を深める。「看護現場で活用できる発達心理学の知識」の提供が目標であり、些末な知識の断片を越えて広く人間の「発達」に対して目を開いてもらえるようにすることが目標である。メディアに頻出する発達障害や少子高齢社会での高齢者を取り巻く話題などにも触れ、現場での患者対応の際に支障が出ないようテーマに親しんでもらう。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] はじめに：発達心理学の「肝」：理論と実験/発達の順序/発達のエリア/遺伝か環境か/生涯発達
- [02] はじめに：発達心理学の「肝」：理論と実験/発達の順序/発達のエリア/遺伝か環境か/生涯発達
- [03] 胎児期・新生児期（～生後1ヶ月）：誕生直後の能力/気質/進化心理学
- [04] 胎児期・新生児期（～生後1ヶ月）：誕生直後の能力/気質/進化心理学
- [05] 乳児期（1ヶ月～1歳半）：情緒の表現/社会性の基礎/アタッチメント= 愛着/人見知り/言語の芽生え/二足歩行の開始/遊びの意味
- [06] 乳児期（1ヶ月～1歳半）：情緒の表現/社会性の基礎/アタッチメント= 愛着/人見知り/言語の芽生え/二足歩行の開始/遊びの意味
- [07] 幼児期（1歳半～5歳）前期：単語数の激増と言語習得/自己認知/社会性の芽生え/うそをつく
- [08] 幼児期後期：自我の発達/論理の芽生え/数の概念/絵本/ごっこ遊び/保育園・幼稚園の生活/他人との比較
- [09] 幼児期後期：自我の発達/論理の芽生え/数の概念/絵本/ごっこ遊び/保育園・幼稚園の生活/他人との比較
- [10] 児童期（小学生）：読み書き・計算能力の向上/論理的思考とIQ/グループ遊びといじめ/劣等感
- [11] 青年期（中・高・大学生）：友人関係の発達/第2次性徴/自意識過剰と自己嫌悪/親との距離/将来への不安/社会意識/若者文化
- [12] 青年期（中・高・大学生）：友人関係の発達/第2次性徴/自意識過剰と自己嫌悪/親との距離/将来への不安/社会意識/若者文化
- [13] 成人期（20代前半～40代前半）初期・中期（いかに生きるか/恋愛/結婚・離婚/子育て/仕事と家庭の両立/親としての発達）
- [14] 成人期後期・老年期（60歳以上）：中年危機/子離れ/退職の衝撃/祖父母として/健康問題/認知症/介護問題/死への準備
- [15] 成人期後期・老年期（60歳以上）：中年危機/子離れ/退職の衝撃/祖父母として/健康問題/認知症/介護問題/死への準備

【教科書】

林洋一監修（2010）史上最強図解よくわかる発達心理学，ナツメ社

【参考書】

無藤隆，大坪治彦，岡本祐子編集（2009），よくわかる発達心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）第2版，ミネルヴァ書房

【評価方法・評価基準】

授業参加と貢献度：30%

中間テスト（期間内に特定課題への論述試験答案を提出；理解度で評価する）：30%

期末テスト（期間内に特定課題への論述試験答案を提出；理解度で評価する）：40%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事後学習としては発達の視点から看護現場での課題を見るのが望まれる。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅲ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ．多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ．ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅷ．生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

テストに関しては事前に十分なガイダンス（その目的や答案作成のコツなど）を行う。採点結果に関してはその総括を授業内において提示する。

【備考】